

第56回「協同教育研究会」開催のご案内

研究会代表 安永 悟
(久留米大学 文学部)

めっきり寒くなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、第56回目となる本研究会を「対面」で実施することにしましたのでお知らせします。対面での開催はコロナ後初めてとなります。今回の研究会を企画するにあたり、コロナ禍で思い悩み、試行錯誤して取り組んだ皆さん一人ひとりの教育活動を振り返り、これからの教育活動のさらなる展開・発展の一里塚になればと考えました。ただ単にコロナ前に回帰するのではなく、コロナがもたらした社会の変化を受け入れ、肯定的な側面を見だし、積極的に活用すべきと考えています。そのためにも、今回はいつも以上に参加者の皆さんが相互に交流できる時間を多く取りました。皆さんの参加をお待ちしています。

参加を希望される方は、協同教育研究所のホームページ(HP)から申込をお願いします。今年2月にHPをリニューアルしました。申込は新しいHPからお願いします。むろん、これまで同様、当日参加も受け付けます。案内が直接届いていない方も歓迎します。

ただし、新型コロナウイルス感染症予防のために当日体調不良の方や体温が37度以上の方は参加できませんのでご了解ください。研究会当日は会場でも手指消毒と体温測定をお願いします。

なお、本研究会は久留米大学比較文化研究所の後援を受けています。また、初年次教育学会の「初年次教育実践交流会」、日本協同教育学会の「九州地区研究会」、全国個集研の「支部研究会」としても認めていただいています。

研究会の後、飲食を伴わない短時間の情報交換会を予定しています。

記

1. 日 時 : 研究会・2022年12月10日(土) 13時~16時 (情報交換会・16時~17時)

2. 場 所 : 久留米大学御井本館3階 13BC 教室

<http://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/3/access.html>

● 注意・これまでの会場とは違います。キャンパスで一番大きな建物の3階です。

3. 参加資格 : 協同教育(学習)および「協同」一般に関心のある方

4. 参加申込 : 協同教育研究所「結風」のHP (<http://yuikaji.me/>) の「イベント参加受付」からお願いします。記入にあたっては(注意)を参考にしてください。

(注意) ・イベント名 「協同研56回」

・イベント開催日「2022/12/10」

・携帯電話番号はハイフンなしで。例「09012345678」

・返信がない場合は下記「問合せ先」まで連絡ください。

5. 研究会の内容

(1) 挨拶・導入 30分(13:00-13:30)

- a. 担当： 安永悟(久留米大学)
- b. 内容： 今回は次の内容を予定しています。
 - ① 協同の技法をもちいた自己紹介
 - ② 協同学習の基礎基本

(2) 「原点回帰・初版テキストから読み解くLTD — Hill(1962)とRabow et al.(1994)との比較を通して —」 80分(13:30-14:50)

- c. 講師： 安永悟(久留米大学)
- d. 内容：

今回の報告では、副題にあるように、LTDの初版テキスト(Hill, 1962)と改訂版テキスト(Rabow et al., 1994)とを比較検討することにより、LTDの創案者であるHillの想いを読み解き、今後のLTD型授業のさらなる改善と展開について、参加者の皆さんとの意見交換をしたいと考えています。

日本に紹介されたテキストは改訂版であり和名は「討論で学習を深めるには」です(レイボウら, 1996 ナカニシヤ出版)。英名は「William F. Hill's Learning through Discussion」です。この改訂版の前書きをHill自身が書いています。一方、初版のタイトルは「Learning Thru Discussion」です。この初版の謝辞にRabowが実践者として紹介されています。このことから、両者は知人であること、Rabowは少なくとも30年を超えるLTDの実践経験を通して改訂版を出していることが分かります。

両者を比較して興味深い点が幾つかあります。なかでもLTD過程プランのステップ数の違いは注目に値します。改訂版では8ステップですが、初版では9ステップになっています。このステップ数の違いから何が読み取れるのか。大変興味深いものがあります。

本報告の冒頭、簡単にLTDの振り返りを行います。協同の精神に満ちたLTDに詳しい参加者からのサポートもあります。LTD初心者の方の皆さんも安心して参加してください。

(セッションの途中で適宜15分程度の休憩をとる)

(3) 協同カフェ 50分 (15:05-15:55)

- a. 担当： 須藤文(久留米大学)
- b. 内容：

協同学習に関して、参加者の皆さまが疑問に思っていることや質問したいこと、さらには自分の実践について、参加者同士が自由に交流しながら理解を深めることを目的としています。

本カフェも協同学習の考え方と技法を用いて構成します。協同学習の経験知を高める場としても活用していただきたいと思います。

(4) 閉会 5分 (15:55-16:00)

6. 情報交換会

研究会終了後、研究会と同じ会場で、飲食を伴わない情報交換会を60分程度予定しています。入退室は自由です。

問合せ先： ご不明な点があれば、次までお願いします。

office○yasunaga.me (○を@に変更してください)

以上